

3月11日
看板設置のため樹種を同定
摩周・屈斜路パークボランティアが冬芽観察



阿寒国立公園川湯地域で自然保護活動などを行っている摩周・屈斜路パークボランティア(金井秀明会長)の皆さんが3月11日、川湯エコミュージアムセンター周辺に広がる川湯園地で樹木の冬芽観察を行いました。川湯園地に自生する樹木に看板を設置するための活動で、道路や散策路沿いの樹木を同定(分類上の所属を決定すること)しました。この時期は葉がないため、冬芽や樹皮で樹種を判別。この日は計23種類の樹木を観察しました。参加した皆さんは「冬季の樹木観察は難しかったが、とても勉強になった」と話していました。

3月8日
身近な政治を学ぶ
弟子屈小学校6年生が町議会を傍聴



弟子屈小学校(佐野哲哉校長)の6年生の児童が3月8日、平成29年第1回町議会定例会を傍聴しました。社会科の授業の一環で、政治の単元を学習していることから傍聴を行ったものです。この日は定例会2日目で、徳永町長の町政執行方針、小林教育長の教育行政方針、一般質問が行われました。子どもたちはやや緊張した面持ちで傍聴席に着き、ノートに書き留めるなどしながら真剣に聴き入っていました。

3月15日
北方民族への理解を深めよう
チームくっしゅろが町外バス研修を企画



屈斜路湖周辺の歴史・文化の収集・発信・環境保護などを行う地域活動団体・チームくっしゅろ(斎藤敬子代表)主催のくっしゅろ講座特別編「バスに乗って行く町外施設見学研修会」が3月15日に行われました。今回はアイヌを含む北方民族がテーマで、研修先は網走市方面。24人が参加しました。まず、濤沸湖 水鳥・湿地センターで、網走国定公園である同湖の自然環境や保全などについて説明を受けました。その後、道立北方民族博物館を訪れ、世界各国から集められた900点もの展示を見学。参加者の皆さんからは「楽しく、ためになった」などの声が聞かれました。

3月14日
地熱事業の活用を考える
作家の真山仁氏が講演



弟子屈町地熱理解促進事業地熱講演会が3月14日、社会老人福祉センターで開催されました。町では、地熱事業の可能性と今後の活用を視野に、町内の地熱資源量を把握するための調査・検討を行っています。講演会は皆さんに地熱への理解を深めてほしいと開催されたもの。講師は作家の真山仁氏で「地熱資源を生かした地域活性化」と題して講演を行いました。政治や経済、エネルギーなど幅広い社会問題を問う作風で知られる真山氏は、全国の地熱活用の事例を紹介しながら、地熱が持つ潜在的な可能性について説明。参加者の皆さんは熱心に聴き入っていました。

3月17日
環境に配慮した取り組みの一環
町公用車に電気自動車を導入



日産自動車(株)が行う「日産e-NV200 P Rモニターキャンペーン」に町が採択され、電気自動車の無償貸与を受けることになりました。公用車への電気自動車導入は、釧路管内の自治体では初めてです。貸与式は3月17日、役場で行われ、村松一樹常広日産代表取締役から徳永町長に電気自動車の引き渡しが行われました。同キャンペーンには、全国で約1,000件の応募があり、150台が当選。道内からは10台が当選しました。町のエコツアーリズム推進構想や地熱利用など環境施策が評価されたもので、電気自動車は環境関連事業で優先的に使用。また、蓄電池としても活用できることから、防災関連事業でも活用します。

3月16日
災害時に必要な活動を学ぶ
ボランティアの集い



平成28年度ボランティアの集い(弟子屈町ボランティア連絡協議会主催)が3月16日、社会老人福祉センターで開催されました。ボランティアに関わる人材育成のため毎年開催されているもので、約30人が参加しました。今回は災害ボランティアがテーマ。講師に、昨夏の台風10号で甚大な被害を受けた十勝管内清水町社会福祉協議会の曾田豊さん、本町の防災対策専門官・中村英雄さんを迎え「災害ボランティア活動について」をテーマとした講演を聴講しました。

2月21日
屈斜路湖などで調査・研究した成果を発表
玉川大学の学生が調査報告



玉川大学の学生による「屈斜路湖周辺生物相調査および魚類資源への影響調査」報告会が2月21日、役場で開催されました。町と同大などを含む玉川学園は、平成27年に包括連携協定を締結し、共同研究を行っています。報告会は協定に基づいて行われたもので、同大の学生5人が、屈斜路湖のウチダザリガニの生態と防除法、石狩別川のニホンザリガニの食性などに関する調査・研究について発表を行いました。

カメラスケッチ
広報マンが行く!!



このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐ反映させます。お気軽にご連絡ください。
まちづくり政策課広報統計係 ☎482-2913(課直通)

2月22日
農村地域の活性化と知名度アップに貢献
渡辺体験牧場がコンクールで優秀賞



「わが村は美しくー北海道」運動第8回コンクール(北海道開発局主催)で、釧路ブロックから(有)渡辺体験牧場(渡辺隆幸代表取締役)が優秀賞を受賞し、2月22日に役場で表彰式が行われました。コンクールは、自然的・社会的・歴史的に特徴ある景観を形成し、農山漁村の地域に貢献した活動を表彰するもの。同体験牧場は、放牧を主体とした農村の自然景観の保全、牛のおっぱいミルクを軸としたさまざまな地元特産品の開発・販売で、地域の活性化に貢献したことが評価されました。渡辺代表取締役は「命と食の大切さを伝えることが活動理念。今後さらに活動を盛り上げていく」と意気込みを語りました。

2月22日
噴火に備えた避難計画について協議
アトサヌプリ火山防災協議会の総会



平成28年度アトサヌプリ火山防災協議会総会が2月22日、町公民館で開催され国・道や観光関係機関などから約50人が出席しました。同協議会は、一昨年設置した任意の火山防災協議会を活動火山対策特別措置法(活火山法)に基づき昨年改組し、同法律に定める機関などで組織したものです。総会には内閣府の防災担当者もオブザーバーとして出席し、改正活火山法で義務付けられた「アトサヌプリが噴火した場合の避難計画」について協議。今後1～2年をかけて具体化する予定です。また、北海道大学大学院の中川光弘教授が「次世代大火山研究プロジェクトとアトサヌプリ火山防災協議会」、高橋浩彰准教授が「アトサヌプリの噴火の可能性と形態」について講演を行いました。

2月27日
プロジェクトの課題を整理して新年度へ
南弟子屈ワーキンググループ



南弟子屈活性化協議会(小澤重則会長)の第8回ワーキンググループが、2月27日、旧昭栄小学校で開催されました。同協議会は平成27年5月、地域の活力とコミュニティの核を担ってきた昭栄小学校の閉校を受け、地域ぐるみでのまちづくりを進めようとして設立されたもの。今回のワーキンググループでは、今年度行われてきた「ライダーハウス」「酪農体験ツアー」「特産品開発」各プロジェクトの問題点の整理や、来年度に実施される事業についての検討が行われました。

2月24日
道内での観光列車運行の可能性を探る
観光列車フォーラムを開催



北海道主催の観光列車フォーラムが2月24日、川湯温泉のホテルで開催され、鉄道ファンなど約100人が参加しました。フォーラムでは、(株)道銀地域総合研究所の大熊一精特別研究員が道内での観光列車運行の可能性や実現に向けた方向性について報告。その後、札幌市出身のフォトライター・矢野直美さんが「観光列車と地域の活性化」と題して講演し、全国の観光列車を紹介しながら、地域の関わりが大切と話しました。また、釧路公立大学地域経済研究センター長の佐野修久さんをコーディネーターに、矢野さんら5人が観光列車の可能性についてパネルディスカッションを行いました。